

岩手県企業短期経済観測調査結果（2010年9月）

調査対象企業数 76 社：回答数 76 社（製造業 29 社、非製造業 47 社）、回収率 100%
回答期間：8月23日(月)～9月28日(火)

1. 業況判断

調査対象先の業況判断指数（D.I.）は、製造業、非製造業ともに改善し、全産業では「悪い」超幅が3四半期連続で縮小し（前回 20 今回 15）、07年9月以来3年振りの水準にまで持ち直した。

もっとも、先行きについては、製造業、非製造業ともに悪化に転じ、全産業でも「悪い」超幅が拡大に転じるとの予測（15 予測 25）。

業種別にみると、製造業では、加工業種に続き素材業種でも改善が続き、全体では08年3月以来2年半振りに「悪い」超が解消した（前回 3 今回 0）。もっとも、先行きについては、素材業種、加工業種ともに、再び「悪い」超に転じるとの予測（製造業全体、0 予測 11）。

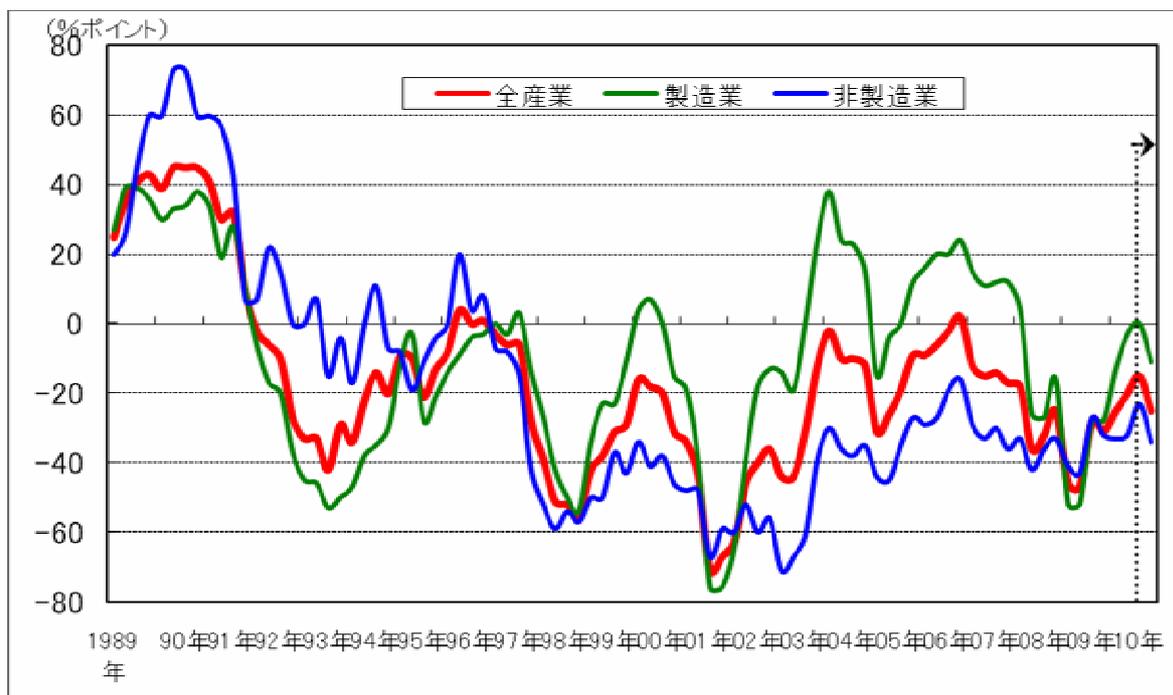
非製造業では、「悪い」超幅が縮小し、06年12月以来4年弱振りの水準まで持ち直した（前回 32 今回 23）。先行きについては、建設の悪化を主因に、全体では再び「悪い」超幅が拡大すると予測（23 予測 34）。

（業況判断 D.I.の推移）（「良い」「悪い」）回答社数構成比、%ポイント、（ ）内は前回予測

	09/6月	9月	12月	10/3月	6月	9月	12月 (予測)
製造業	52	28	28	13	3	0 (4)	11
素材業種	67	33	16	22	11	0 (0)	11
加工業種	48	26	31	10	0	0 (5)	10
食料品	20	0	20	0	40	20 (20)	20
電気機械	33	0	0	15	14	14 (14)	14
非製造業	43	27	32	33	32	23 (36)	34
建設	40	26	26	29	29	32 (59)	50
卸・小売	57	57	43	40	30	30 (20)	30
全産業	47	28	31	25	20	15 (21)	25

（注）調査対象先は定例的に見直す扱いとしており、2009年12月計数までは旧ベース、2010年3月計数からは新ベース。

〔図〕業況判断D.I.の推移



(予測)

(参考) 東北地区(6県)及び全国の業況判断D.I.の推移 ()内は前回予測。

		09/6月	9月	12月	10/3月	6月	9月	12月 (予測)
製造業	岩手	52	28	28	13	3	0 (4)	11
	東北	51	40	24	21	9	1 (6)	12
	全国	55	43	32	23	10	4 (10)	13
非製造業	岩手	43	27	32	33	32	23 (36)	34
	東北	47	34	32	28	24	16 (27)	25
	全国	39	33	30	25	19	13 (20)	21
全産業	岩手	47	28	31	25	20	15 (21)	25
	東北	49	36	29	26	18	10 (19)	19
	全国	45	38	32	24	15	10 (16)	17

2. 売上高・収益（2010年度計画）等

2010年度の売上・収益（全産業ベース）は、製造業を中心に、売上高は回復しつつあるものの、経常利益は価格競争の激化等から前年比大幅減益となる見通し。

これを、製造業・非製造業別、上期・下期別に、やや詳しくみると、以下の通り。

製造業では、上期中、加工業種を中心に、売上高は回復（前年比増加）したが、経常利益は前年比大幅減となっており、増収減益の姿。下期にかけては、売上高の伸びが鈍化していく中で、収益面では減益幅が拡大していく見通し。

非製造業では、上期中、卸・小売で好転の兆しが見られたものの（増収増益）先行き下期にかけては慎重な見方が根強く、非製造業全体では、売上高、経常利益ともに前年並みとの姿。もっとも、経常利益については多くの業種で前回調査時に比べ上方修正がみられている。

（売上高・経常利益）

上段：前年同期比・%、下段（ ）：前回調査比修正率・%

	2009年度 (実績)		2010年度 (計画)					
	売上高	経常利益	売上高			経常利益		
			年度	上期	下期	年度	上期	下期
製造業	7.1	利益	7.3	10.3	4.4	32.5	28.9	35.6
			(2.6)	(2.5)	(2.8)	(1.5)	(3.9)	(7.4)
素材業種	12.8	利益	2.4	0.8	3.9	24.0	3.3倍	3.0
			(6.2)	(6.7)	(5.7)	(0.6)	(63.9)	(14.1)
加工業種	6.7	利益	7.8	10.9	4.9	34.1	30.8	37.2
			(3.1)	(2.9)	(3.3)	(1.6)	(5.2)	(9.5)
非製造業	9.7	32.8	2.1	1.1	2.8	0.2	25.5	1.6
			(0.2)	(0.0)	(0.4)	(6.5)	(2.6倍)	(3.2)
建設	17.2	22.0	9.3	8.0	9.9	15.7	欠損	5.8
			(0.9)	(1.3)	(0.7)	(6.5)	(欠損)	(0.7)
卸・小売	7.1	5.1	1.7	1.3	4.5	2.5	15.8	6.7
			(0.0)	(0.1)	(0.2)	(2.7)	(0.1)	(5.1)
全産業	8.3	利益	3.1	5.5	1.0	22.6	28.7	19.4
			(1.4)	(1.5)	(1.4)	(3.5)	(0.2)	(5.1)

製商品・サービス需給（判断 D.I.、全産業）は「供給超」幅が拡大に転じ、製商品在庫（同）も製造業中心に「過大超」幅が拡大に転じた。この間、仕入価格（同）が製造業中心に「上昇」超を続ける一方、販売価格（同）は製造業、非製造業ともに「下落」超を続けている。

先行きについては、製商品・サービス需給（同）が「供給超」幅を拡大する中で、販売価格（同）は「下落」超幅を拡大するとの予測。

（判断 D.I.） 全産業ベース、回答社数の構成比、%ポイント、（ ）内は前回予測

		09/6月	9月	12月	10/3月	6月	9月	12月 (予測)
製商品・ サービス需給	「需要超」 「供給超」	46	43	44	40	36	38(36)	43
製商品在庫	「過大超」 「不足超」	17	15	17	17	7	9()	
仕入価格	「上昇」 「下落」	13	7	1	8	10	7(13)	9
販売価格	「上昇」 「下落」	35	32	31	22	23	20(20)	28

3. 設備投資額（2010年度計画）等

2010年度計画（ソフトウェア投資を除く）は、製造業では、自動車関連の大型投資に加え、電気機械や一般機械などでも旺盛な計画にあり、全体として前年比7割強の増加となっている。もっとも、前回調査時に比べると、足許若干ながら下方修正の動きがみられており、先行きについても投資計画の上積みはあまりみられていない。非製造業でも、建設や卸・小売を中心に、前年を上回る計画となっている。この結果、全産業では、前年比6割弱の増加計画。

（設備投資額[ソフトウェア投資を除く]） 上段：前年同期比・%、下段（ ）：前回調査比修正率・%

	2009年度(実績)	2010年度(計画)		
		年度	上期	下期
製造業	49.1	73.5 (1.8)	97.0 (5.2)	51.1 (2.8)
素材業種	29.0	3.8 (2.1)	27.2 (4.0)	29.4 (3.2)
加工業種	50.2	78.7 (1.7)	2.0倍 (5.2)	55.9 (2.8)
非製造業	35.9	12.3 (13.5)	47.8 (0.7)	1.5 (23.9)
建設	82.5	82.3 (35.1)	4.8倍 (2.9倍)	47.7 (12.2)
卸・小売	45.3	49.8 (1.8)	2.5倍 (14.3)	25.6 (95.0)
全産業	38.5	56.6 (0.9)	88.2 (4.6)	32.8 (7.6)

（注）今次調査から、「リース取引に関する会計基準」（2008年度から適用開始）に基づく新ベース計数。

生産・営業用設備（判断 D.I.）については、製造業では、「過剰」超幅が3四半期連続で縮小したが、先行きは拡大に転じるとの予測。一方、非製造業では、建設を中心に「過剰」超幅が縮小傾向にあり、非製造業全体でみた「過剰」超幅は、2000年6月以来10年振りに解消した。

（生産・営業用設備判断 D.I.）「過剰」 - 「不足」回答社数構成比、%ポイント、（ ）内は前回予測

	09/6月	9月	12月	10/3月	6月	9月	12月 (予測)
製造業	44	20	36	27	18	7 (18)	21
非製造業	14	5	6	2	7	0 (11)	2
全産業	26	11	18	12	10	2 (13)	9

4. 雇用人員判断

雇用人員（判断D.I.）については、製造業、非製造業ともに、「過剰」超幅が縮小した。先行きについては、製造業が横這いに止まる中、非製造業では改善が続き、全体では「過剰」超幅が引続き縮小するとの予測。

（判断D.I.） 「過剰」「不足」回答社数構成比、%ポイント、（ ）内は前回予測

	09/6月	9月	12月	10/3月	6月	9月	12月 (予測)
製造業	40	20	28	27	25	14 (14)	14
非製造業	16	9	11	13	21	15 (13)	13
全産業	25	13	17	18	22	15 (13)	13

5. 企業金融関連判断

企業の資金繰り（判断D.I.、全産業）は、建設を中心に「苦しい」超幅が小幅拡大。金融機関の貸出態度（同）については、引続き「厳しい」超となっているが、借入金利水準（同）については、前回予測（「上昇」超幅の拡大）に反して横這いに止まった。

（判断D.I.） 全産業、回答社数構成比、%ポイント、（ ）内は前回予測

		09/6月	9月	12月	10/3月	6月	9月	12月 (予測)
資金繰り	「楽」「苦しい」	27	27	24	20	23	25 ()	
金融機関 貸出態度	「緩い」「厳しい」	9	12	12	8	13	13 ()	
借入金利 水準	「上昇」「低下」	0	5	3	3	3	0 (8)	3

以上

本件に関する問い合わせ先
 日本銀行盛岡事務所
 TEL : 019-624-3622 (代)
<http://www3.boj.or.jp/morioka/>